

文学研究科ポリシー (DP・CP)

[ディプロマ・ポリシー]

文学研究科では、国際規模でめまぐるしく変動する現代社会の諸問題に取り組み、解決策を提案できる能力を獲得した人に学位を授与します。

具体的には、次の者に学位を授与します。

1. 2年間の(長期履修生の場合には、3年または4年間の)学修により、教育目標に沿って設置された授業科目の修得をし、本研究科が求める高度な専門的知識や学問に裏付けされた高度職業人としての資質を備えていること。
2. 修士論文の審査に合格していること。
3. 人間学専攻では、人間の営みと社会の諸問題を分析していく高度な専門的な知識に基づいた研究能力を有していること。
4. 英語教育専攻では、現代の英語教育に関わる諸問題を専門的・実践的に研究し、解決できる能力を有していること。

[カリキュラム・ポリシー]

教育課程編成にあたっては、人材育成の目的や教育目標を達成するための体系的な教育課程を編成するというを基本方針とし、学士課程教育との専門性と継続性に配慮し、学士課程教育における教育内容を基礎として、履修の順序に配慮しつつ、基礎から応用までを体系的に編成しています。具体的には、研究対象にアプローチするための基礎的なスキルについて学ぶ導入科目、各専攻の教育目標に応じた専門的知識を学ぶ専門科目、学外で実践的に学ぶ実践科目、修士論文の作成に向けた研究科目群を設けています。また、コースワークでは幅広い専門的文献に取り組み、プレゼンテーションを中心とした授業を通して専門職業人としての資質を養います。さらに、学生の教育・研究支援として、他大学・大学院の講師を招聘した特別講義の開催や、学生の学会参加・発表などの支援も行っています。

人間学専攻では、人間の営み、および社会の諸問題についての多角的に分析を行うために、思想、宗教、倫理、社会、教育、心理といった人文科学の幅広い学問分野の授業科目を配置し、最終的に、修士論文の作成を通して、教育目標が達成されるような教育課程を編成しています。

英語教育専攻では、英語授業学、応用言語学、第二言語習得論、英語学、多文化教育論、共通語としての英語(ELF)を中心に置き、現代の英語教育にかかわる諸問題を専門的・実践的な方法論を用いて研究することにより、体系的に学修できるように教育課程を編成しています。

農学研究科ポリシー (DP・CP)

[ディプロマ・ポリシー]

(修士課程)

農学研究科は、学修成果を以下の項目で評価し、本学が定める基準を満たした人に対して、修士(農学)の学位を授与します。

- 論理的思考過程を経て、物事の結論を導くことができる能力を備えている。
- 自然科学を深く理解し、技術者、研究者、教員に必要な専門知識を備えている。
- 技術者、研究者、教員に必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また科学英語の基本を備え、英語による文章表現ができる能力を備えている。
- リサイクルや地球環境の保全に配慮し、また、バイオテクノロジーの利用に関して、正しい倫理観を備えている。
- 教育職員専修免許状(理科、農業)取得者については、中等教育機関の現場で求められる高度な知識と技能ならびに高い科目運営能力と教材開発能力を備え、時代を担うリーダーを育成できる能力を備えている。

学位審査の基準

1. 所定の単位修得認定
2. 修士学位論文の提出(英文要旨を含む)
3. 主査および副査による当該論文の審査
4. 修士論文審査会での口頭発表(発表20分間、質疑応答10分間)
5. 農学研究科会で総合的判定

(博士課程後期)

農学研究科は、学修成果を以下の項目で評価し、本学が定める基準を満たした人に対して、博士(農学)の学位を授与します。

- 国際的に活躍する技術者、研究者として、あるいは大学教員として自立する準備ができている。極めて高度な知識と新たな分野を創造できる能力を備えている。
- 国際的に活躍できる英語によるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また、英語科学論文を書く能力を備えている。
- 研究指導教員とは異なる教員との交流も行い、幅の広い研究経験を持つことが好ましい。

学位審査の基準

1. 所定の単位修得(見込)認定
2. 予備的検討会において、博士論文提出条件である「研究内容の全部あるいは一部が査読のある英文学術論文(1編以上)に第一著者として受理(掲載見込)」され、かつ博士論文の内容に論理の一貫性、独創性、客観性が認められること。
3. 博士論文の提出
目的が明確であり、独創性に富み、論理性、客観性が担保されていること。学内の倫理規定をクリアしており、実験手法、統計的解析法も適切であること。実験結果についての考察がすぐれていること。引用文献は正しく記載されており、引用の範囲も適切であること。図表を含む他の文献類からの引用は著者権者から適切に掲載許可を得ていること。
4. 主査および副査による当該論文の審査
5. 博士論文審査会での口頭発表(発表60分間、質疑応答30分以上)
6. 農学研究科会での総合的判定。
7. 博士の学位論文として認められたものは、本学の学術リポジトリにおいて3年以内にその全文を公開する。

[カリキュラム・ポリシー]

(修士課程)

資源生物学に関する深い専門知識を得るためのコースワークを整備します。また、高度な実験技術と問題解決能力を身につけるための実験研究課題に取り組み、研究成果を修士論文として提出、発表することを義務づけます。さらに、大学院共通科目として研究倫理、英語によるプレゼンテーション科目などを提供します。

科学研究の報告文を英語で書くための科目『科学英語表現』は必修とします。

教育職員専修免許状（理科、農業）取得を目指す学生は、教育内容・方法学研究、教育制度学研究、教育実践研究など中等教育機関の現場で求められる幅広い知識を身につけるための講義科目を履修することができます。

このほかに、TA、RAとして教育や研究の業務補助を担う機会を提供します。

課程在学中に少なくとも1回は研究成果の内容を学会発表し、

学外の第三者からの客観的評価参考にしつつ、自身の研究の位置づけを確認する機会を主体的にもつことを推奨します。

(博士課程後期)

国際的に活躍することのできる、より高度な研究能力と問題解決能力を身につけられる特別研究科目を提供し、各自の研究課題にさらに深く取り組む環境を整えます。研究指導教員以外の博士課程後期担当教員による実験指導などをあわせて受ける機会もあり、広い研究視野を生かして新しい発想が生まれることを期待します。

3年次に博士論文予備的審査会を実施し、博士論文執筆作成に導きます。

国際学会での発表、英語による学術論文の投稿等の学術発表を奨励します。なお、英語による学術論文1編以上が予備的審査会までに学術雑誌に受理されていることが博士論文提出の条件となり、その目標に到達するための研究指導が提供されます。

工学研究科ポリシー（DP・CP）

[ディプロマ・ポリシー]

工学研究科は、工学の視点に立ち、知識基盤社会を支えることのできる高度な専門性と豊かな人間性、社会性、グローバルな視野を備えた研究者・技術者・教育者の育成を目的としています。

修士課程では2専攻に人材育成7分野および工学基礎院科目群を置いて幅広い学識と専門能力の涵養を図り、技術者としての問題解決力をもつ人材を養成します。

技術者としての問題解決能力を育むために設定された教育課程から30単位以上を修得し、特定分野において深い学識と研究開発能力を獲得した人に対して、修士の学位を授与します。

また、博士課程後期システム科学専攻では、修士課程の教育研究をさらに高度化して、知識基盤社会において研究者あるいは高度の技術者として自立して研究開発を行える人材を育成します。

自立した研究者を育むために設定された教育課程から18単位以上を修得し、特定分野において最先端の研究を実施して研究能力を獲得した人に対して、博士（工学）の学位を授与します。

[カリキュラム・ポリシー]

修士課程においては、学部で修得した基礎学力・基礎知識・倫理観を確実に身につけさせ、さらに発展させることで、各分野による人材育成を行っています。

機械工学専攻には材料加工システム、環境エネルギー、経営システムの3分野、電子情報工学専攻には、量子情報、システム情報学・ロボティクス・情報セキュリティの4分野を配置し、各分野で教育課程の単位を取得することで、その分野に必要な基礎的知識と実践能力が一通り身につくコースワーク科目群を用意しています。

特に『専門演習Ⅰ』と『インターンシップ』は、学生の技術的実践力の強化を、『テクニカルイングリッシュ』は英語力の強化を目指した科目です。必修となっている修士論文のための研究をとおして、研究開発の基本を学びます。

また、機械工学専攻および電子情報工学専攻では高等学校教諭専修免許状（工業）、電子情報工学専攻ではそれに加えて中学校・高等学校教諭専修免許状（数学）の課程を設置します。これらの課程では、教育内容・方法学研究など教職に関する科目を必修とすることで、専門知識だけでなく教育能力の向上も支援します。

博士課程後期では、研究能力の涵養のため、『研究サーベイ』、『研究企画・方法論』、『分析・モデリング』、『論文構成・表現法』という研究要素技能の訓練と、それらを統合して研究ディスカッションを行う訓練としてのセミナーの科目を用意しています。

これらに加えて、各専門領域の先端講義および外部講師による特別講義を加えることで、知識領域を新たに開拓するための研究方法を学びます。

マネジメント研究科ポリシー（DP・CP）

[ディプロマ・ポリシー]

マネジメント研究科の各コースの課程を修了し、「修士論文」または「課題研究」を提出し、その審査および最終試験に合格した人に「修士（マネジメント）」を授与します。

修了者にはコースごとに以下の能力を修得していることが求められます。

グローバル・マーケティング研究コースでは、主として経営

戦略や中小企業経営を、世界全体をひとつのシステムとして捉えるグローバル・マーケティングの視点から理論的に理解する能力とケーススタディを通じて養われるその実践能力。

会計学研究コースでは、会計、法律、金融・経済を、世界全体をひとつのシステムとして捉える国際会計の視点から理論的に理解する能力と問題演習を通じて養われる公認会計士もしくは国際会計人（BATIC[®]コントローラーレベルあるいはU.

S.CPA) になるのに必要な高度な専門能力。

グローバル・ツーリズム研究コースでは、ツーリズム産業や地域創成の現場のマネジメントならびにマーケティングを、世界全体をひとつのシステムとして捉えるグローバル・ツーリズムの視点から理論的に理解する能力とケーススタディを通じて養われるその実践能力。

スクール・マネジメント研究コースでは、非営利組織経営の一つとしての学校経営を、世界全体をひとつのシステムとして捉えるグローバル経営の視点から理論的に理解する能力と人的資本養成を目的適格的として実質的に実践する能力。

【カリキュラム・ポリシー】

マネジメント研究科では各研究コースにおいて、グローバル時代のマネジメントを理論研究とケーススタディから学び、高度な専門知識と実践力を備えた次世代ビジネスリーダー、経営後継者、会計専門職、そして学校経営者等を育成するために以下のようなカリキュラム・ポリシーを定めます。

グローバル・マーケティング研究コースでは、世界全体をひとつのシステムとして捉えるグローバル・マーケティングの知識を、経営戦略、中小企業経営、そしてマーケティングにわたる幅広い高度なマネジメント理論とケーススタディを通じた実践論から修得できるような教育課程を編成します。

会計学研究コースでは、公認会計士もしくは国際会計人になるのに必要な専門性の高い会計、法律、金融・経済の知識を理論研究と問題演習から修得できるような教育課程を編成します。

グローバル・ツーリズム研究コースでは、世界全体をひとつのシステムとして捉えるグローバル・ツーリズムの知識を、ツーリズム産業、地域創成の現場のマネジメントやマーケティングの理論とケーススタディを通じた実践論から修得できるような教育課程を編成します。

スクール・マネジメント研究コースでは、非営利組織経営の一つとしての学校経営の知識を、グローバル経営の高度なマネジメント理論と学校法人会計、教学マネジメントなどの学校経営論とを統合して修得できる教育課程を編成します。

教育学研究科ポリシー (DP・CP)

【ディプロマ・ポリシー】

教育学研究科教育学専攻は、「人材養成等教育研究に係る目的」に向けて、次の学修成果を果たし、教育学研究科教育学専攻のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、かつ修士論文の成果の審査および最終試験に合格した者に修士（教育学）の学位を授与する。

〔知識・理解〕

- 教育学研究の意義、目的、手法等を正しく理解し、自立した研究活動を行なうことができる。〔汎用的技能〕
- 教育実践および教員養成課程の諸課題を発見し、課題を解決することができる。

〔態度・志向性〕

- 社会で必要とされる幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を持ち、社会的責任を持って社会発展に積極的に関与できる。

【カリキュラム・ポリシー】

教育学研究科教育学専攻は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、教育課程の編成・実施方針を以下に明示する。

1. 学部教育によって得た教育学的基礎能力を土台に、教育諸科学における理論的研究を深める教育学基礎科目群を配置する。
2. 修士課程修了者として現代社会で必要とされる、幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を培う関連科目群を配置する。
3. 社会における教育実践の諸課題を発見し、その課題の本質を追究し、問題解決へと導く力を培う教育学発展科目群を配置する。
4. 研究の成果を修士論文としてまとめるために、個別のかつ継続的な指導を行うことが可能な特別演習科目群及び修士論文を配置する。

教職大学院ポリシー (DP・CP)

【ディプロマ・ポリシー】

教職大学院では、本専攻のカリキュラムにおいて所定の単位（学校課題研究を含む）を修得し、修了判定において合格とされた人は、以下に掲げる基礎的な能力と実践的な能力を身につけていると判断され、教職修士の学位が授与されます。

基礎的な能力

1. 確かな授業力と総合的な人間力。
2. 学校現場の課題を見極めることのできる高度の理解力と診断力。
3. 具体的な課題解決策を策定する企画力。
4. 解決策を実際に試みるための展開力。
5. 教育活動を客観的に追求する研究力。
6. 高度な専門的知識や上記資質能力を生かした他の教員等への指導力。

実践的な能力

1. 教育を取り巻く環境が著しく変化する中での学校教育の役割や教育行政との関係を理解し、適切な教育経営を行うことができる実践的指導力。
2. ICTの活用等多様な授業形態や指導方法で子どもたちを授業にひきつけ、授業を円滑かつ効果的に運営できる実践的指導力。
3. 学校の教育活動における道德教育の意義や在り方を理解し、子どもたちと真正面から向き合って心の問題を解決し得る実践的指導力。

[カリキュラム・ポリシー]

教職大学院では、本学創立の理念である全人教育の精神、専門職大学院としての教職大学院の設置の目的に基づき、ディプロマ・ポリシーにおける基礎的な能力を育て、高度な専門的な能力および優れた資質を有する高度専門職業人としての小学校・中学校・高等学校教員を養成するために、以下の科目群を設定します。

基本科目群

専門職大学院としての教職大学院に共通に設定される科目群

1. 〈教育課程の編成および実施に関する領域〉
2. 〈教科等の実践的な指導方法に関する領域〉
3. 〈生徒指導および教育相談に関する領域〉
4. 〈学級経営および学校経営に関する領域〉
5. 〈学校教育と教員の在り方に関する領域〉

発展科目群

高度な知識を身につけ、実践的な課題への方策を考えることを可能にする科目群

小学校教員（専修）プログラムでは、「教育経営」「教育実践・教材開発」「指導が難しい子どもへの支援」「心の教育実践」の4つの専門的領域をコースとして設定

総合科目群

学校での具体的な課題に即して自らの解決策を考え、論文にまとめる学校課題研究

学校における実習

学校において教育活動にあたりながら、実践的能力を総合的に高める実習と学校における実習に直結し、質的向上を図るための科目群

いずれの科目においても、教員の立場で即応的に活かされるオーセンティックな学びの達成を重視し、評価する。

脳科学研究科ポリシー（DP・CP）

[ディプロマ・ポリシー]

心の科学専攻（修士課程）

グローバル化や情報化、少子高齢化など日々変化し複雑化する現代社会において、脳科学の教育・研究を通して広く社会に貢献できる高度な知的素養を備えた人材を育成します。

心の科学専攻（修士課程）のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出された修士論文が審査のうえ合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、修士（学術）または修士（工学）の学位が授与されます。

1. 脳の神経回路と物質的な基盤に基づいて心のはたらきを解明する神経科学研究、または心理学の観点に基づいて心のはたらきを解明する人間科学研究を通じて得た知識を用いて広く社会に貢献する能力（学位：修士（学術））。
2. 脳の情報処理として心のはたらきを解明する脳情報科学研究を通じて得た知識を応用して広く社会に貢献する能力（学位：修士（工学））。

脳科学専攻（博士課程後期）

グローバル化する国際社会において競争力を保ちながら、心のはたらきの基盤となる脳・神経のしくみを科学的に探求し、その成果をもって国際社会に貢献できる創造性豊かな研究者、技術者を育成します。

脳科学専攻（博士課程後期）のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出された博士論文が審査のうえ合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、博士（学術）または博士（工学）の学位が授与されます。

1. 脳・神経の科学的理解を通して、人間の持つ豊かな心や社会を学際的な視点から研究する脳・神経学際研究を自立して担うとともに、その成果をもって国際社会に貢献する能力（学位：博士（学術））。
2. 脳の情報処理のしくみを解明して、計算科学への応用を目指す脳型計算論研究を自立して担うとともに、その成果をもって国際社会に貢献する能力（学位：博士（工学））。

[カリキュラム・ポリシー]

心の科学専攻（修士課程）

脳情報科学研究、神経科学研究、人間科学研究を進めるにいたる知識、技術をもった技術者、教育者、研究者養成を目指した教育を行います。具体的には、研究の基本的な方法を学ぶ「心の科学導入科目」、脳情報科学研究、神経科学研究、人間科学研究それぞれの研究分野に応じて専門性をより高めるために設定した「心の科学専門科目」、狭い範囲の研究領域のみならず、幅広く高度な知識、能力が身につけられるように設定した「心の科学関連科目」、データの解析から論文作成に至る研究の方法論を学ぶ「心の科学研究科目」の各科目群を設け、教育目標に応じた授業科目を体系的に配置します。

脳科学専攻（博士課程後期）

国際的にも通用する、脳型計算論研究、脳・神経学際研究を進めるにいたる知識、技術をもった研究者・技術者養成を目指した教育を行います。具体的には、脳型計算論研究、脳・神経学際研究それぞれの研究分野に応じて専門性をより高めるために設定した「脳科学専門科目」、研究計画の作成から論文作成に至る研究の方法論を学ぶ「脳科学研究法」の各科目群を設け、教育目標に応じた授業科目を体系的に配置します。